



新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

組合員及び地域住民の皆様とともに、輝かしい新年を迎えられたことに謹んでご祝詞を申し上げます。

日頃より農協の各事業におきましては、格別なるご理解とご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、2月に新型コロナウイルスに集団感染したクルーズ船が横浜港に入港し、その後、世界中に感染拡大。4月に政府が緊急事態宣言を発出し、人の移動の制限や、飲食店等の営業規制に加え、各種イベント等の自粛など今までの生活様式が一変しました。そして国内外の経済に大きなダメージを与えました。

国内経済は、緩やかに回復していると言われているなかの出来事に、まさに、先の見通せない状況となりました。

一方、農業を取りまく情勢については、

就農人口の減少や生産農家の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加等の諸問題に直面している中、元気な地域と農業をめざして「元気な農業への発進」「豊かな暮らしへの発進」「組織・経営基盤の強化」の実現に向け、自己改革に取り組んでいるところです。

このような中、当JAの主力作物であるりんごについては暖冬消費の影響で生育が早めに推移しましたが、その後の低温により開花日は平年並みとなりました。開花量は概ね平年並みとなりました。その後の天候も概ね順調に推移し、目立った自然災害もなく近年にない良い出来秋を迎えることができました。当JAの入庫数量は814,191箱（前年比124%）の入庫実績となりました。

また、稲作については生育期間中全般的に好天に恵まれたことにより、自主流通米5,454俵、(前年比99%)という実績となりました。

りんごの販売については、早生種の「サツがる」は環境も良好で流通量が少ないことから、概ね順調な販売でスタートしましたが、中生種の「早生ふじ系」「トキ」については出遅れたことに加え、収穫量も多く、台湾を中心とする輸出向けは飽和状態となり、国内出荷比率が高まったことから価格は下げ基調となりました。

晩生種の主力のサンふじについては、中生種との品種間リレーがスムーズに行われないことに加え、他県産の「ツルワレ」等の下位等級品が出回り安値基調となりました。反面、上位等級品については、贈答需要により引き合いが強くなり、二極化現象となりました。

年内は国内贈答、年末から春節向け輸出需要が最盛期となり、越年在庫は前年を大幅に上回る見通しですが、企画販売の充実、新型コロナウイルスにより変化する販売・消費形態に対する宣伝施策により、売場の確保と高値販売に取り組んでまいります。

近年、農業生産基盤が急速に脆弱化していくことが強く懸念される中、組合員の期待に応えるとともに、地域に根ざした組織として、組合員ならびに利用者の皆様から愛されるJA相馬村をめざし、役職員が一人丸となって取り組んでまいりますので、より一層のご理解とご協力をお願いします。
本年も大きな災害の無いことを祈りつつ、組合員及び地域住民の皆様が健やかで笑顔に暮せることを願い新年のあいさついたします。

代表理事 組合長 大場 勉

専務 理事 三上 隆基

理事 金融 共済部長 花田 敏幸

理事 (総務委員長) 福島 憲一

理事 (りんご委員長) 花田 勇人

理事 (総務・りんご委員) 田澤 俊則

理事 (総務・りんご委員) 溝江 徹

代表 監事 藤田 伸

監事 山内 知人

監事 岩谷 健

他職員一同